

音楽研究会 部会記録

日時	令和3年1月12日(水) 15:30~16:45				
部会名	鑑賞部会		主任	澤 由美 (日吉南小)	
参加数	9名	司会	深田 真人(大道小)	記録	澤 由美 (日吉南小)

鑑賞部会テーマ

音楽作品や演奏表現のよさ、美しさを自ら感じ取り、共に考え、聴き味わう鑑賞活動

○研究授業の分析と考察

提案：西尾 暢子 先生 (荇子田小学校)
岩清水 幸恵先生 (豊岡小学校)

<分析・考察>

研究内容① 音楽を形づくっている要素を視点にした楽曲分析、教材研究

- ・音楽を形づくっている要素を、4年生という発達段階を考慮して、要素(旋律、速度、強弱)と仕組みの要素(変化)と設定して焦点化して、楽曲を教材化したことは、昨年度の課題をふまえた上での成果であった。ふれるべき要素が明確であったため、楽曲分析も焦点化した要素にしぼることができ、より教師の教材に対する「楽曲観」が明確になった。
- ・今回は、部会の話し合いの結果、『音色』は焦点化しない、という方向性をもった。しかし、本時では、一人の児童が、「アは楽器の人数が少なく、イは多くて、ウになると少なくなった」と発言したこと(授業記録 p4)、楽器の音色に関する発言が相次いだ。部会の想定とは異なり、アの部分はソロがあること、イは多くの楽器で演奏されていること、そのことにより音量が変化し、強弱の変化の表現と関係していることに気付いている子どもたちが多かった。今回は、教師は他の要素の話題に移していったが、ソロや多くの楽器での合奏と、演奏形態が異なっていることから、どういった感じ方の違いが生まれるのかを子どもたちに発言させてもよかった。教師が準備していない話題が生まれることは、授業には必然起こることであり、それを方向修正しながら対話することにより、深まりが生まれるのではないか。

研究内容② 教師の手立て、働きかけなどについての研究。

- 主体的・対話的で深い学びを支える手立て(発問・学習形態・掲示物・映像教材等)
- ①教師と子ども達、子ども達同士のやり取りや対話の中で、学びが深まる発問・手立て
- ②授業で効果的に「楽曲を聴く」こと

・第1時 「どんな感じの曲かな。想像したり動いたりして聴こう」

1回目は曲名を伝えずに、全曲聴き、子ども達から自由な発言を引き出した。始め・中・終わりの曲の感じが違うことを感じ取っていた子ども達の発言から、教師が整理して板書し、3つに分かれていることに気付く事ができた。2回目は3つに分かれていることに注目しながら、曲想の変化に気を付けて聴くように促し、感じた事をさらに引き出していた。3回目は体を動かしたり歩いたりしながら聴き深めた。3度聴いた後でワークシートに感じた事を記入した。1回目は何も言わずに→2回目は始め・中・終わりを意識して→3回目は体を動かしながらと、聴き方に変化を加えることで子ども達は、自然と聴き深め、よりたくさん事を想像しながら聴く事ができた。ワークシートに記入したことを発言してから、最後、音で確かめるために全曲通して聴いた。

学習形態(聴き方)を工夫したり、その都度何に注目して聴くかを教師が示したりすることで、「たくさん聴いて、たくさん感じ取り、この曲の楽しさを味わう。」第一時の発問の聴こうを達成できたと考える。

・第2時 「1曲の中で 感じ取ったことや想像したことが変わっていくのはなぜか考えよう」

第1時でたくさん聴いて、感じ取ったことを板書したものを活用し、2時では聴き深めた。音楽室前方にあった、音楽のもとについてのカードが非常に有効であった。子どもの発言から教師がくみ取り、「それはこれの事かな？」とカードを活用して分かりやすく授業を進めることができた。また掲示物のカードの中から言葉を選んで発言したりワークシートに記入したりする子どもの姿がみられた。速度や強弱の変化についての子ども達の発言を、音源で確認しながら聴き深めていく事で、強弱や速度の変化については全員で要素を確認することができた。知覚と感受を整理し、分かりやすく板書にまとめることで、子ども達の思考を促すことができ、第2時の発問である考えようを達成できたと考える。

<協議>

○今回の成果

- ・要素の焦点化
- ・音楽との出会いの演出
- ・掲示物の充実
- ・音楽の聴かせ方

○今回の課題

- ・音楽を形づくっている要素の何をとらえさせたいのか、そのために何をするか、を明確にする。
旋律・・・楽譜や図形を見せる、上がり下がりや身体表現であらわす、スコアを見せる、等
- ・グループワークは何に向かって行うかを示す。
交流するか、収束させるか、安心材料にするか
- ・学習のゴールを大切にする
学習のめあて、発問、まとめと、学習を貫くようにする